

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | |
|----------------|---|---------------------------|--|---|-----|----|----|
| 国際メディカル専門学校 | 平成14年1月9日 | 白倉 政典 | 〒950-0914 新潟市中央区紫竹山6丁目4番12号 (電話) 025(255)1511 | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | |
| 学校法人 国際総合学園 | 昭和32年10月10日 | 池田 弘 | 〒950-0914 新潟市中央区紫竹山6丁目4番12号 (電話) 025(255)1511 | | | | |
| 目的 | 総合病院において診療記録および情報を適切に管理、活用することで、医療の質の向上や病院の健全な経営に貢献する診療情報管理士を育成する。また、多忙な医師業務を軽減する医師事務作業補助者の資格取得・育成も同時に目指し、今後ますます多様化する医療現場において、情報管理の重要な担い手を育成する。 | | | | | | |
| 分野 | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | |
| 医療 | 医療専門課程 | 診療情報管理士学科 | 平成26年1月28日 文部科学省告示第6号 | — | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 3年 | 昼間 | 2420 | 1380 | 810 | 230 | 0 | 0 |
| 単位時間 | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | |
| 120人 | 60人 | 3人 | 19人 | 22人 | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月20日 ■後期:9月21日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末の試験、出席率等による。 | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月上旬 ■夏季:7月下旬から8月下旬 ■冬季:12月下旬から1月上旬 ■学年末:3月中旬から4月上旬 | | 卒業・進級条件 | 学科カリキュラムに規定する卒業に必要な単位をすべて修得すること。 | | | |
| 生徒指導 | ■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個人ガイダンス、面談等 | | 課外活動 | ■課外活動の種類 ホランティア、地域貢献活動、町おこし活動への参加 ■サークル活動: 無 | | | |
| 就職等の状況 | ■主な就職先、業界等 総合病院 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 85% ■その他 診療情報管理士・医師事務作業補助者業務での採用が89%(他、医療総合職) (平成28年度卒業者にに関する 平成29年5月1日時点の情報) | | 主な資格・検定等 | 診療情報管理士認定試験 医師事務作業補助技能認定試験 診療報酬請求事務能力認定試験 医事コンピュータ技能検定 医療秘書技能検定 電子カルテ実技検定試験 ICDコーディング技能検定試験 医療情報技師能力検定試験 など | | | |
| 中途退学の現状 | ■中途退学者 3名 平成27年4月1日時点において 在学者 63名 平成28年3月31日時点において 在学者 60名 ■中途退学の主な理由 進路変更(別の学校への転校、就職) ■中退防止のための取組 校全体、学科単位での動機づけ、個別ガイダンスの実施。 | | ■中退率 4.8% (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む) | | | | |
| ホームページ | http://www.icm-net.jp/ | | | | | | |

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

該当学科では、主に総合病院において診療記録および情報を適切に管理、活用することで、医療の質の向上や病院の健全な経営に貢献できる診療情報管理士を育成する。また、多忙な医師業務を軽減する医師事務作業補助者の資格取得・育成も同時に目指し、多様化する医療現場において、情報管理の重要な担い手を育成する。該当学科ではこれらに必要な知識を学べるようカリキュラムを編成している。また、学んだ知識をもとに医療現場での実際の業務を体験しながら、必要な知識の定着を図るとともに現場実践での新たな気づきから、目標とする人材像への今後のアプローチを図る上でのモチベーションを高めるよう豊富な病院実習をカリキュラムに取り入れている。時代の変化に即し、より専門的な能力を育成するため、教育課程の編成において病院等医療機関、大学等との密接な連携により、より実践的な職業教育の質の確保に取り組む。そのため、専門分野に関する医療業界全体の動向、医事課業務に関する知識を有する関係者および学術関係者から構成される委員会を組織し、意見を聴き、教育課程の編成の参考とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は本校の教務部のもとにおく。学科の教育課程の編成にあたっては教育課程編成委員会の意見を活用する。委員会の議長は本校教務部長等教育課程編成の責任者とする。委員は医療業界全体の動向に関する知見を有する者または専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者および実務に関する知識、技術、技能についての知見を有する医療機関や関係施設の役職員を含むものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-------------------|---------------------|----|
| 赤澤宏平 | 新潟県診療情報管理懇話会幹事 | 平27年4月1日～平成29年3月31日 | ② |
| 田端芳男 | 新津医療センター病院 事務部長 | 平27年4月1日～平成29年3月31日 | ③ |
| 野村典央 | 新潟臨港病院 医事課長 | 平27年4月1日～平成29年3月31日 | ③ |
| 白倉政典 | 国際メディカル専門学校(学内委員) | 平27年4月1日～平成29年3月31日 | |
| 佐藤秀幸 | 国際メディカル専門学校(学内委員) | 平27年4月1日～平成29年3月31日 | |
| 宮本真由美 | 国際メディカル専門学校(学内委員) | 平27年4月1日～平成29年3月31日 | |
| 加藤 綾 | 国際メディカル専門学校(学内委員) | 平27年4月1日～平成29年3月31日 | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は教務部長招集の元、前期末および後期末の年2回定期に開催する。また、教務部長は必要により招集することがある。

(開催日時)

- 第1回 平成27年9月24日 10:00～11:30
- 第2回 平成28年3月 7日 10:00～11:30
- 第3回 平成28年9月28日 10:00～11:30
- 第4回 平成29年3月17日 10:00～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

診療情報管理士学科教育課程編成委員は、職業実践専門課程認定済みの医療事務学科の委員も兼ねている。2学科の目指す診療情報管理士と医療事務学科は業務上の立ち位置は違えど、必要とされるスキルや学校教育の中で身につけておきたい専門領域に共通する部分が多く、1・2年次の複数科目を共通カリキュラムで学ぶ仕組みとなっている。そのため、教育課程編成委員も2学科共通の委員とし、包括的な意見交換と助言をいただけるような体制としている。すでに医療事務学科の教育課程編成委員会開催は6回を数え、「実践的な実習としての内容の充実」「求められる能力・人材像の議論と整理」といった視点で各委員より意見・助言を受け、改善方策、教育課程への反映について検討し、いくつかの試みを実践してきた。昨年9月の委員会の際に指摘のあったこととして、①実習先病院を拡大することについては、新規開拓は難しいながら新規に一病院を実習病院として加えることができた。委員の指摘の通り実務に基づいた質の高い実習を進めていくため、病院とのコミュニケーションを更に深めて行く。加えて、「病院実習」については、学生が能動的に実習に臨めるよう、学生から実習内容のリクエストをとってみては、という委員の意見を基に、実習先と連携して実習を実施するようにしている。病院実習後は実習先担当者に実習報告会に参加してもらい、講評いただくことで、実習の振り返りができ、能力の定着化につながる。今後は、実習報告会に参加できなかった実習先に報告会のレジュメを送付し、意見をいただくことで、より現場と連携をとった教育を展開していく。②実習報告会ではまだ消極的な姿勢の学生が多いことが指摘された点、また③学校で学んでおいた方がよかったということを卒業生からヒアリングしてみて、カリキュラムや指導に生かしていくべきとの指摘について、卒業生の声からも診療情報管理士・医療事務共通で仕事を進める上で「医学用語」の知識が必要であるという認識から、既存カリキュラム「医学用語」の内容強化と併せ、総合学習として医学用語に関する学年横断的グループワークや発表会を行ったり、診察内容の記録を要約したサマリーから病名を見つけ出して発表する症例検討会などを実施してきた。自ら考え、意見を伝え、相手に理解してもらえるという達成感を得られたようである。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

病院等医療機関の求める人材育成要請を十分活かし、診療情報管理に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、実習において病院等医療機関との密接な連携を通じ、実践的な職業教育の質の確保に努める。実習に当たっては、学校で学んだ知識をもとに現場実践的な専門知識・技術、社会人としてのマナー、社会性を身につけること、医療職としての職業観を得ることを主たる目標に置く。目指す医療機関で求められる能力と自己の現在の能力との差を知るなど、自己分析を通して目標とする人材像に近づくよう学習モチベーションを高め、今後の学修に活かす。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

本学科と医療機関等が協定書を締結し、校外で実施される実習について、学生の指導や学修成果の評価等に関して連携体制をとる。学生の実習に際して、医療機関等と事前に学習内容についての打合せを行い、病院関係者からの事前指導(講義等)を通して、実習で学ぶ目標を明確にした上で実習を行う。実習終了時には、各々の振り返りを通して目標の達成状況の確認をするとともに医療機関等の指導者より学修の成果を評価してもらう。

(3) 具体的な連携の例

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|------|---|---|
| 病院実習 | 2年前期には、特定機能病院を知り、これまで見学してきた一般病院との違いを理解する。後期については、これまで学習してきたことと実務の実際を理解する。また、体験だけでなく実習報告会を通じ、それぞれが体験してきたことの共有を図るとともにプレゼンテーション技術を身につける。 3年次には、2年次に実習した内容から更に踏み込んだ実務の実習を体験(コーディング、病歴登録、疾病統計等)することで、診療情報管理士のおこなう専門業務を理解する。 | 新潟大学医歯学総合病院 新潟リハビリテーション病院 新潟脳外科病院 新津医療センター病院 新潟臨港病院 など |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校では就業規則の教育規程にもとづき別途定める研修規定により、教職員に対して専門的な知識技能に関する教育他、一般的な知識、情操に関する教育等を行うこととしている。そのため、法人本部、学校内および外部機関との連携の下、職業に関連した実務に関連した知識、技術および技能ならびに授業および学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修機会を確保する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

院内がん登録(実務中級認定者研修)、コーディング勉強会(初級～上級)、新潟県診療情報管理研究会、「医科」点数改定説明会

② 指導力の修得・向上のための研修等

発達障がい学生への修学支援及び就活支援のあり方、YouTube研修

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

医事コンピュータ検定教員研修会、コーディング勉強会(初級～上級)、日本診療情報管理学会学術大会、新潟県診療情報管理研究会

② 指導力の修得・向上のための研修等

お客様“目線”の接客術、教職員研修会(進路指導セミナー)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校は教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努める。専修学校における学校評価ガイドラインを踏まえ、学校が行っている学生意識調査、保護者アンケート、その他の資料に基づく自己評価に対して、学校関係者評価委員会から毎年度末に評価を受ける「学校関係者評価」を実施し、その結果を公表するとともに、その結果を踏まえた学校の改善に取り組む。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|---------------|
| (1)教育理念・目標 | (1)教育理念・目標 |
| (2)学校運営 | (2)学校運営 |
| (3)教育活動 | (3)教育活動 |
| (4)学修成果 | (4)学修成果 |
| (5)学生支援 | (5)学生支援 |
| (6)教育環境 | (6)教育環境 |
| (7)学生の受入れ募集 | (7)学生の受入れ募集 |
| (8)財務 | (8)財務 |
| (9)法令等の遵守 | (9)法令の遵守 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | (10)社会貢献・地域貢献 |
| (11)国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の評価結果をホームページ上公表するとともに、委員会での指摘事項をさらに翌年度以降の学校運営で改善を図っている。平成26年度学校関係者評価委員会では、学科により募集人数が減少したという報告に対して、国家資格、検定資格の取得実績・専門職への就職実績等高く評価できるものがある。教育内容の告知不足ではないかとの指摘を受け、4月以来、高校生・その保護者を対象にホームページ、ニュースレター、SNS等で告知をよりわかりやすく伝える工夫に努めている。社会人にメリットのある「専門実践教育訓練給付金講座」の指定を受けた学科については、将来のよりよい医療人の輩出を図るため意欲のある社会人に向けて積極的に告知してきた。結果、H27年度生、H28年度生に多くの優秀な社会人が入学してきてくれた。クラスの刺激になっている。H27年度学校関係者評価委員会においては、医療職者のホスピタリティ意識の醸成、卒業生とのつながりの強化の指摘があった。今年度も「ホスピタリティ」研修や講演会でのテーマに取り上げた。OBから後輩への就職講演も行っているが、動画による後輩向けコメントも配信するようにした。また、グループ校のメリットを生かした学校を超えた交流の報告に高い評価を得、更に活発な活動を要望された。H28年度ではグループ間交流の初の試みとして、学園祭を企画・実行し、2日間で4万人の来場を実現するなど、学生交流を満足感高く実行することができた。来場者への働きかけを通じて、学生間の団結・協力、ホスピタリティを学ぶ機会にもなったと思われる。また特に、診療情報管理士学科・医療事務学科では夏、秋にかけて行われる地域おこしの市内の行事に、全員で参加するよう指導している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|------|---------------------|------------------|------|
| 野水宏一 | 新潟県立吉田病院 事務長 | H28.3.1~H30.3.31 | 企業等委 |
| 田村泰生 | 医療法人愛広会 人事部長 | H27.4.1~H29.3.31 | 企業等委 |
| 仲野隆一 | 社会福祉法人 愛宕福祉会 人事部長 | H28.3.1~H30.3.31 | 企業等委 |
| 池井淳子 | 元国際メディカル専門学校看護学科副校長 | H28.3.1~H30.3.31 | 元副校長 |
| 佐藤桜子 | 国際メディカル専門学校 校友会会長 | H28.3.1~H30.3.31 | 卒業生 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 毎年5月1日

URL: http://www.icm-net.jp/common2008/pdf/2016/h27_hyouka02_02.pdf

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

医療機関等との連携による実践的な職業教育を行う本校が医療機関等の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携および協力の推進に資するため、医療機関等の学校関係者に対し、学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等理解を得ることに努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|--------------------|--------------------|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | (1) 学校の概要、目標及び計画 |
| (2) 各学科等の教育 | (2) 各学科等の教育 |
| (3) 教職員 | (3) 教職員 |
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | (4) キャリア教育・実践的職業教育 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | (5) 様々な教育活動 |
| (6) 学生の生活支援 | (6) 学生の生活支援 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | (7) 学生納付金・修学支援 |
| (8) 学校の財務 | (8) 学校の財務 |
| (9) 学校評価 | (9) 学校評価 |
| (10) 国際連携の状況 | |
| (11) その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.icm-net.jp/>

授業科目等の概要

| (医療専門課程診療情報管理士学科) 平成28年度 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|------|------|----------------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|--|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | | |
| ○ | | | 医学概論 | 医学と医療に関する歴史的変遷を学び、医療の現状を理解する。また、医の倫理、社会保障制度、医療制度等関連法規の知識を学び、医療の社会的役割を総合的に理解する。 | 1前 | 20 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | |
| ○ | | | 解剖学・生理学 | 人体の基本的仕組みを系統的に理解すること（解剖学）と、その働き（生理学）を学び、生命の営みの基本を理解することを目的とする。器官、臓器の構造と機能を理解することで、疾病・病態の理解や治療の理解の基礎となる。 | 1通 | 75 | 5 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床医学総論 | 病気の原因、病態、診断、治療、予防、予後について総合的に理解する。 | 1通 | 20 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床医学各論（精神・脳神経・感覚器系等） | 精神・脳神経・感覚器系等の疾病について、特徴、症状、診断法、治療法等について理解する。 | 2通 | 20 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床医学各論（消化器・泌尿器系） | 消化器・泌尿器系の疾病について、特徴、症状、診断法、治療法等について理解する。 | 1通 | 20 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床医学各論（感染症および寄生虫症） | 感染症および寄生虫症の疾病について、特徴、症状、診断法、治療法等について理解する。 | 2通 | 20 | 1 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床医学各論（循環器・呼吸器系） | 循環器・呼吸器系の疾病について、特徴、症状、診断法、治療法等について理解する。 | 3通 | 40 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床医学各論（新生物） | 新生物の分類をはじめ、新生物の特徴、症状、診断法、治療法等について理解する。 | 3通 | 40 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |
| ○ | | | 臨床医学各論（血液・代謝・内分泌等） | 血液・代謝・内分泌等の疾病について、特徴、症状、診断法、治療法等について理解する。 | 3通 | 35 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|-------------|--|----|-----|----|---|---|--|---|---|--|--|--|--|--|--|---|
| ○ | | 診療情報管理学Ⅰ | 診療情報が医療においてどのような価値をもっているかを学び、診療情報管理の重要性について理解を深める。 | 3前 | 60 | 4 | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | 診療情報管理学Ⅱ | 診療情報を管理する目的や意義を十分理解し、診療記録を有効且つ効率的に管理するための手法と診療記録の記載法や種類、診療情報管理業務の実務について学ぶ。 | 3後 | 120 | 8 | ○ | | | ○ | | | | | | | | |
| ○ | | 電子カルテ | 電子カルテの基本操作また、医師事務作業補助に必要なディクテーション能力をつける。電子カルテ検定の取得を目指す。 | 2通 | 20 | 1 | △ | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 医療秘書実務 | 敬語、電話対応など基本的なビジネスマナーを学ぶとともに、医療機関特有の患者対応の基礎知識を学ぶ。併せて、医療秘書検定2級取得に必要な知識も学ぶ。 | 2通 | 45 | 3 | △ | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 疾病分類法Ⅰ | 国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、歴史と現在の状況を概観するとともに、日本における利用の現状を理解する。 | 2通 | 120 | 4 | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 疾病分類法Ⅱ | 疾病分類法Ⅰで学んだ応用とともに、IT化が進む中でICDを用いる意義を理解し、医療現場において標準的な分類コードを用いることや実際にコードをつけることの意味・問題点を把握する。 | 3通 | 80 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 疾病分類法演習Ⅰ | 疾病分類法Ⅰの学習と関連付けながら、疾病分類法の理解を深め、その特徴を踏まえてICD-10の各章に沿った分類技術と使用方法を修得する。 | 2後 | 30 | 1 | | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 疾病分類法演習Ⅱ | 疾病分類法演習Ⅰで修得した分類技術に併せ、退院時要約や死亡診断書等を用いて、診断名、医療行為および原死因のコーディングとそれを用いた情報活用の技術を修得する。 | 3通 | 60 | 2 | | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | ICDコーディング実習 | 疾病分類法Ⅰでは、ICD-10の2巻・3巻を用いた分類をおこなったが、コード検索CD-ROMを用い、コーディングの実際を理解する。 | 3後 | 40 | 1 | | | | ○ | ○ | | | | | | | ○ |
| ○ | | 診療報酬請求 | 診療報酬請求（医科）の算定を学び、前期においては医療事務管理士認定試験、後期は診療報酬請求事務能力認定試験の取得を目指す。 | 1通 | 160 | 10 | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 診療報酬請求演習Ⅰ | 診療報酬請求で学んだことを、カルテの問題演習で理解を深める。前期においては医療事務管理士認定試験（医科）、後期は診療報酬請求事務能力認定試験（医科）の取得を目指す。 | 1通 | 210 | 7 | | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 診療報酬請求演習Ⅱ | 診療報酬請求演習Ⅰの応用として、公費負担医療や労災保険などの実務を学ぶ。また、医療秘書検定2級の取得を目標とする。 | 2通 | 50 | 1 | | ○ | | ○ | | | | | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|------------|---|--------|----|---|---|-----------------|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ○ | | 心理学 | 心理学の基礎的知識及び人間心理と人間の行動について学ぶ。 | 1 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 数学 | 「医療統計学Ⅰ」の導入として、統計の基礎となる正規分布、推定、検定などを学ぶ。 | 2 前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 日本語表現Ⅰ | レポート作成（病院見学、研修等）にあった表記や表現を学ぶ。また、小論文作成など就職試験で必要となる文書の作成にあった表記について学ぶ。 | 1 通 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 日本語表現Ⅱ | 就職・提出書類・実習の場にあった表記を学ぶ。また実習報告会にむけ、プレゼンテーションの方法、パワーポイントの作成・操作も学ぶ。 | 2 通 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | コミュニケーション学 | 「話す・聞く」技術を総合的に学び、より効果的・的確に意見を伝えられるコミュニケーションの体得を目指す。 | 1 前 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 就職実務Ⅰ | 診療情報管理士の職種理解をし、自分の将来像とマッチングさせる。就職活動の基本的な流れを知る。 | 2 後 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| ○ | | 就職実務Ⅱ | 就職活動の基本的な流れを知り、具体的な活動ができるよう、意識づけを図る。 | 3 通 | 15 | 1 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | 52科目 | | | | 2420単位時間(112単位) | | | | | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|--|----------|-----|
| カリキュラムに規定する卒業に必要な単位をすべて修得すること。各科目試験において成績評価が「C」評価以上の評価を得ていること。各科目の授業時間数の3分の2以上の出席がされていること。 | | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1学期の授業期間 | 18週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。